

(様式2) 平成29年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名
	川崎市立土橋小学校
校長名	赤松 理

- (1) 書き方については、19年度～21年度発行の「学校評価報告書」を参照ください。
- (2) 評価項目設定については、各学校の実情に応じて取捨選択したり、新たな項目を各学校独自の言葉で作成したりして記入することもできます。
- (3) 学校関係者評価を実施した学校は、「学校関係者の評価」に記入してください。
- (4) 「今年度のまとめ・次年度へ向けての取組」に、今年度の学校運営のまとめと次年度への具体的な取組を記入してください。また、取組や課題に関連して、教育委員会の施策や事業に対するご意見、あるいはご要望等がございましたら記入してください。

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
つながる心を大切にする子・ちからをあわせて進む子・はじける笑顔で学ぶ子を育てることを通してしあわせいっぱいの学校をつくる	・違いが豊かさとして響きあう学校 ・安心して学び合える学校 ・地域社会に開かれた学校	A つながる心を大切にする姿を育む B ちからをあわせて進む子を育む C はじける笑顔で学ぶ子を育む

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 つながる心を大切に する子を育む (子どもの居場所 づくりと集団づくり)	子どもも先生も「あいさつ」の聲が響く学校とするための取組みを行う。	○企画運営委員会・代表委員会の声掛けのもと、全クラスで「あいさつ」をし合える雰囲気作りに取り組んだ。教職員のあいさつする姿勢についても、保護者から良い評価をされるようになってきた。	
	学習や活動の場面で異学年交流を取り入れる。	○異学年交流については、年度当初の計画になかったため、進んだとは言えない。また、しゃべるんDAYでは縦割りグループで異学年交流ができたものの、学校全体としてはあまり実施できなかった。	土橋小学校の特徴にあった取組みを計画する必要がある。
	一人ひとりの子どものよいところを見つけ、「ほめる」ことで教師と子ども、子どもと子どもをつないでいく。	○日頃から子どもの様子を丁寧に見取るよう心掛けているが十分とは言えない。	タイミングよく「ほめる」ことができるよう、指導者が子どもの変化を見逃さない目を養うとともに心の余裕を持てるような工夫を積み重ねていきたい。
4 ちからをあわせて 進む子を育む (認め合う心・豊かな心の育成)	学び合って、課題を解決していく学習を取り入れる。	○課題解決型学習を十分に実施できていない。	研鑽を積んで「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す必要がある。
	みんなでちからを合わせて参加する活動を実施する。	○全学年で実行委員制を重視している。全ての子どもに1年間の中のどこかで、責任ある役割を担い、アイデアを出し合うなどの経験をさせることをねらいとしている。	この長年積み重ねてきた伝統を生かしながら、達成感を味わう場面の質を高めたい。
	上の学年、特に5、6年生が憧れとなるよう、各学年の様子を互いに知ることができるような場をつくる。	○委員会活動や運動会などを通して高学年ならではの活躍場面があるものの、単発的で身近な場面とは言えない。	異学年交流などの充実を図るなど、工夫の必要性を感じている。
7 はじける笑顔で学 ぶ子を育てる (わかる・楽しい 授業づくり)	安心感のある学級をつくる。	○土橋スタンダードや「みんなのやくそく」などが定着し、学校ルールの見直し、定着はだいぶ進んでいる。	今後も継続して、教職員・子どもの人権意識が高め、思いやりや助け合いが広がる「安心」できる学校づくりを進めたい。
	「やってみたい!」「知りたい!」と思う授業をつくる。	○校内研究では「主体的に学ぶ子ども」の姿を求めて実践を繰り返した。今年度から教科を体育に絞って、学校全体で研究研修を進めることができ	

9	「できた!」「わかった!」が聞こえる授業をつくる。	○教職員で協力して教材研究をするなど、日ごろから指導力向上に努め、分かる授業、できるようになる授業を実施している部分もある。	この部分をさらに増やし、すべての子どもに必要な学力を身に付けさせられるよう、研鑽を積んでいく必要がある。
10	「つなげる聴き方」のできる授業をつくる。	○話したいという気持ちがあっても対教師で終わってしまう場面が多い現状である。	一緒に学ぶ仲間と話したい、一緒に考えたいという気持ちが高まるように、「よい聴き手」を育て、「よい話し手」も育てる授業づくりを進めていきたい。
11	グループやペアの学習を取り入れる。	○多くの場面でグループやペアによって協働する場面を設けているが、さらに質を高める必要がある。	○グループやペアといった自分だけでない複数の力で課題に取り組む楽しさをさらに気づかせていけるよう、効果的なグループまたはペア学習の指導方法について学び、活用していきたい。
12			
13			
14			
15			

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
<p>12年目を迎え数多くの実りがある一方で、学習指導要領の改訂期にあたり、課題があふれる。川崎市の学校運営協議会の目標に照らして自己省察的に述べたい。</p> <p>○保護者や地域や児童の意見を的確に迅速に学校運営に反映させられたか：学校評価をweb上でも実施するなど工夫を重ねた。行事協力者に振り返りを寄せて頂いている。児童の意見表明の活動も子どもスタッフの参加など進展している。声を届けにくい人々へのアプローチが課題。</p> <p>○保護者や地域が学校運営に参画する。／より良い教育の実現に向けて一緒に考え、活動する：学校運営への参画の階梯は道半ばである。すでに質の高い体験学習プログラムや学習成果の交流が行われてきた。「コミュニティスクール＝みんなで創る学校」であり、目標・内容・方法・評価・子ども理解という教育実践の5要素について、保護者と地域に参画の機会と意識を広げ充実させる。とくに「社会に開かれた教育課程」の土橋小での実現にむけて、児童の声を聞きながら、教育活動への責任を持った持続的な参画を具体的に考え試行する。</p>	<p>開校12年目を迎える本校は、コミュニティスクールとしても同じ年月を重ねてきている。学校経営方針の具現化の方策としての「つちはしアクション」の策定や、アクションを基にした学校アンケートの実施、集計分析などを学校運営協議会の学校評価部会が担っている。これまでのアクションやアンケートの方式が10年たったところで、今年度は改訂に踏み切った。改訂の観点として大事にしたのは、学校目標、学校教育目標を学校に関わるすべての人が共有することである。すべての人とは、教職員、保護者・地域、そして何よりこの学校に通う児童である。児童すなわち小学校1年生とも共有できる為には、小学校1年生にもわかりやすい言葉で学校目標、学校教育目標を表すことが必要であると考えた。そこで、土橋小学校の合言葉「つながる心 ちからを合わせ はじける笑顔 しあわせいっぱい土橋小学校」を活用することとした。この合い言葉は児童には浸透しており、新一年生にも理解できる平易な言葉である。これを全児童に理解できる新たな学校目標、学校教育目標として定め、具現化の指標としての「つちはしアクション」を児童、教職員、保護者・地域と共有していくこととした。</p> <p>策定の手順としては、「つながる心 ちからを合わせ はじける笑顔」の具体的な姿を想定し、その姿に近づけるための手立てを教師のアクションとして設定した。その後、児童は学級会、代表委員会を経て児童のアクションを設定。最後にコミュニティスクール研修会、学年学級懇談会を経て、家庭でのアクションを設定するよう投げかけた。</p> <p>今年度はこうした過程に時間をかけたので、具現化への取り組みが十分ではないことは否めないが、上記のような評価を得た。</p> <p>次年度は、今年度の取り組みを土台にアクション自体の変更は最小限にとどめ、より一層の具現化を目指すとともに、各家庭や地域への浸透を図って行きたい。</p>